Ｑ：「て・に・を・は」の使い方がよく分かって，しっかりと身に付く指導法があれば教えてください。

Ａ：助詞の指導については，学習指導要領第１学年及び第２学年の「表記に関する事項」に次のように示されています。

助詞の「は」，「へ」及び「を」については，視写や聴写の指導などを繰り返し行うことによって，文の中で使えるようにすることが必要である。

助詞については，個別に文章をよく見て，単に助詞の使い方だけの問題なのか，いわゆる「文のねじれ」と言われる文全体の構成上の問題なのかを見極めながら指導してあげるのがよいでしょう。

**アドバイス：**

### ①助詞の特徴に気付かせましょう

助詞「は」「を」「へ」は，名詞＋助詞で使われます。いわゆる「くっつき」の「は（wa）」「を（o）」「へ（e）」であることを理解させて，語中の「は」「を」「へ」と区別させていきましょう。そのためには，「～は～。」「～を～。」「～へ～。」の文を何度も読んだり，名詞を入れ替えたりする学習を繰り返し，物の名前や場所にくっつく「は」「を」「へ」が「wa」「o」「e」と発音することに気付かせましょう。

### ②文作りの学習を繰り返し，理解と定着を図りましょう

漢字の習得や言葉のきまり（文法）の習得など，言葉に関する学習において大切なことは，実際に使う形や場面に当てはめて効果的に学習することです。それには，文作りが適しています。「は」「を」「へ」の助詞の場合，例えば「りすはたべる」「木のみをたべる」を「りすは，木のみをたべる」のように，述語が同じ二文を一文にしたり，「わたしは，学校へ行く」を「わたしは行く」「学校へ行く」のように一文を二文にしたりする学習です。助詞の学習と同時に文の構造にも触れることができます。

### ③聴写を意図的に取り入れましょう

学習指導要領にも「視写や聴写」とありますが，視写に比べ聴写を行う機会は少ないのが実情ではないでしょうか。助詞の習得のためには，積極的に聴写を取り入れていきましょう。聴写は，自分が書き上げた文（文字）と元の文（文字）を比較することができます。漢字の有無や読点の位置の他，文字の間違いに気付く機会が多く，発音と表記の異なる「は」「を」「へ」の習得学習にも効果的です。

### ④文法の誤りを確認しましょう

小学校の段階では，低学年に限らず，高学年の子どもたちも「文のねじれ」といわれる誤りが数多くみられます。例えば「わたし$\boxed{は}$，今年一番がんばったの$\boxed{は}$運動会です」など「が」を「は」としてしまったり，「この話の中で，戦争$\boxed{を}$主人公の気持ち$\boxed{を}$考えながら読んだ」など「を」が重出してしまったりする間違いです。これらに対応するためには，文章を読み返して，推敲させる習慣をつけたり，同じ誤りを繰り返す場合には，個別に指導したりする必要があるでしょう。